



# 白鳥神社

山岡鉄舟実家小野家の知行地であった竹沢地区勝呂の神社。  
この幟旗は、鉄舟が布に直に揮毫したもので、鉄舟がこの地を訪れた際  
揮毫用の大きな筆がなかったため、藁みごを束に筆の様にして鉄舟はこれ  
をかかえ、文字のかえしは足で蹴り上げ書き上げたといわれます。



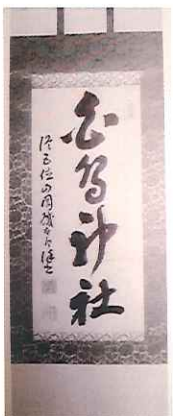
英霊国家を鎮む

明治十三年仲秋  
山岡鉄太郎書



鴻澤民庶を露す

明治十三年仲秋  
山岡鉄太郎書



白鳥神社

従五位山岡鉄太郎謹書

# 白山神社

小川地区増尾の神社



白山神社

従五位山岡鉄太郎謹書

幟旗を立てる台



蘭能  
(らんよく)



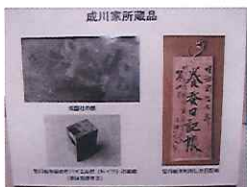
制剛  
(せいこうを  
せいす)

# 小川和紙と山岡鉄舟

小野家知行地の名主成川忠次郎が、明治になり小川和紙を東京で販売したく思いついたのが当時の常備薬「宝丹」の包み紙であった。上野の本  
店に交渉していくが、保証人三人を必要とすることで、成川が山岡鉄舟をお願いする旨を伝えると、  
相手が恐縮して「鉄舟氏なら一人で充分です」と言い、無事商談が成立したそうです。ここに  
展示してありますのは、和紙を漉いた簾、それをピンクに染めた顔料の写真です。販売会社の  
名称は成川の「成」をとって「成国社」(せいこくしゃ)と名付け、鉄舟が揮毫しました。



成国社



# 成川忠次郎

名主成川家の長男で、山岡鉄舟に憧れ慶應二年頃に弟子入りしました。  
幕末・明治維新と鉄舟の元で剣の稽古に精進しておりましたが、成川家の長男なので家を継が  
なければならず、帰郷令が出ました。渋々帰郷する忠次郎に鉄舟は明治天皇から拝受した靴下  
を賤別に渡し、ねんごろな文を添えています。忠次郎の無念さが伝わってまいります。